

日本数式処理学会が日本学術会議の 登録団体となったことを喜ぶ

渡辺 隼郎

日本数式処理学会は1992年4月25日に設立されました。以来約7年半たった1999年9月14日に「第18期日本学術会議会員の選出に係わる学術研究団体に登録された」という通知がありました。現在日本数式処理学会の学術研究従事者の構成員数は343名です。300名以上が有資格条件ですので、この条件を何とかクリアできたというわけでしょう。また一度登録団体となると次期の審査は比較的易しいという一般論的推測がありますので、しばらくは登録団体を続けられると思います。

以前は新規の学術団体が日本学術会議の登録団体となることは大変厳しく、理由無く門前払いに近い取り扱いを受けたというある学術団体の代表者がある有名新聞に投書して世間の話題となったことを記憶しておられる方もおありでしょう。我々の学会が日本学術会議の登録団体となったということは、近頃の規制緩和という傾向のおかげということができると思います。お役所の方針転換で一喜一憂するのはしゃくですが、ありがたく今回の結果を受け取りたいと思います。

ある古典的な学術団体の雑誌の今月すなわち11月号の巻頭言に、その分野の古典的な教育研究を担う一部の教育研究機関は現代の市場原理と競争原理により解体の危機に瀕している、しかしこの分野のこの機関は大切であるという意見をのせています。世紀末の嘆き節はマーラーの交響曲にまかせて、わたしたちは嘆かずに、現代の規制緩和による自由競争を好機と考えて、わたしたちの分野を発展させて行こうではありませんか。それにはあらゆる異質なものととの出会いを自分の分野の発展の好機と捉えて行く発想が大切であり、市場による審判はその学問分野そのものへの審判と受取り、外見と歴史的伝統に囚われた権威に頼るという発想からの転換が大切なのではないでしょうか。会員各位の自助努力に期待いたします。

(わたなべ しゅんろう 津田塾大学 情報数理科学科 本学会会長)